

国立大学法人東京外国語大学

# 災害発生時の学生の心得

(安全確保のために)

2023(令和5)年9月

# 第1 災害（地震・火災・事故等）に対する基本事項

## 1 基本的心得

- (1) まず、身の安全を確保してください。
- (2) 周囲の状況や正しい情報を的確に把握し、冷静に行動してください。
- (3) 火災・事故等を発見した場合は、直ちに消防署及び大学の管理室(守衛室)に通報してください。

## 2 学内の連絡先

- (1) 電話連絡（安否確認を含む。）

<24時間対応>

区 分	連 絡 先	担当部署
災害全般	042-330-5110 (キャンパス110番) 042-330-5419	大学管理室 (守衛室)

<就業中は下表でも可>

区 分	連 絡 先	担当部署
学生の事故	042-330-5177 (gakusei-kakari@tufs.ac.jp)	学生課
留学生の事故	042-330-5181	留学生課
教職員の事故	042-330-5127	人事労務課
構内の火災、電気・水道 等設備の異常等	042-330-5144	施設企画課
上記以外の事故・異常	042-330-5126	総務企画課

- (2) 安否確認システム（ANPIC）による連絡

本学では、災害時や緊急時にインターネットを介して学生や教職員が自身の安否を報告し、大学が安否状況を一元管理する安否確認システム（ANPIC）を運用しています。今後、関東地方に大規模な地震が発生した際には、ANPICから学生、教職員のみなさんの学内メールアドレス等に安否を確認するメールが配信されま

す。メッセージを受け取った際は、自身の安全を確保した上で、必ず大学へ安否状況を報告してください。

災害時にみなさんに間違いなく安否確認のメッセージが届くよう、スマートフォンのメールアドレス、アプリ、LINEの事前登録をお願いいたします。

ANPICは初期登録（本登録）を行うことで、各種機能が利用可能となります。

新入生は、初期登録案内のメールが届いた後に必ず登録をお願いします。

初期登録がまだ済んでいない方は下記サイトから必ず登録をお願いします。

<https://www.tufs.ac.jp/abouttufs/outline/riskmanagement/anpic.html>

### (3) その他の大学からの連絡

大学からの連絡はホームページやANPICのメッセージ機能などで連絡しますので、確認するようにしてください。

## 3 家族等への連絡

### (1) 災害用伝言ダイヤル（171）

地震等の災害発生時に、被災地の方の安否を気遣う通話が増加し、被災地への通話がつながりにくい状況（ふくそう）になった場合、サービスが提供されます。

<https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/images/manual.pdf>

### (2) 災害用ブロードバンド伝言板(web171)

インターネット上で、安否等の情報をテキストで登録・確認できる伝言板です。災害等の発生時、被災地域（避難所等含む）の住居者がインターネットを経由して災害用伝言板（web171）にアクセスし、電話番号をキーとして伝言情報（テキスト）を登録できます

PC等から <https://www.web171.jp/web171app/topRedirect.do> へアクセス

### (3) SNS

SNSは家族の無事を確認するためや、交通機関や避難場所の情報を集めるために使えます。市町村などでもSNSを使ってさまざまな情報を発信しているので、自分の住む市町村などのアカウントをフォローしておきましょう。

また、SNSの確信のもてない情報を鵜呑みにしないようにしてください。

## 第2 災害（地震）発生時の対応

### 1 基本的対応

#### 地震発生時

- 1 まず、身を守る！ （机の下などにもぐる。余裕がなければ、手近なものでも頭を保護）  
↓
- 2 すばやく火元の始末！ （火元、電気コンセントなどの処置をする。無理をしない）  
↓
- 3 非常口の確保！ （ドアを開ける）  
↓
- 4 火災、救急等の連絡！ （消防署に正確に通報する）



#### 地震直後

- 1 火元の確認！ （火が出たら、落ち着いて初期消火をする。無理をしない）  
↓
- 2 周囲の人の安全を確認！ （倒れた書庫等の下敷きや、けが人の確認をする）  
↓
- 3 作動中の電気器具を止める！ （スイッチを切る）



#### 地震収束後

- 1 隣接する部屋等で助け合う！ （他の部屋・教室等のけが人の確認をする）  
↓
- 2 その後の余震に注意！ （避難場所に避難する）



**避難場所に待機し安全を確認**  
**学外の場合は自治体の指定する避難場所等**  
**学内の場合は屋外運動場**

## 2 具体的対応

### (1) 学内にいたとき

状 況	安全を確保する行動例
講義室、演習室、研究室等で授業中の場合	速やかに机の下に頭部を隠し、地震の揺れが収まったら、直ちに出入口扉を開け、担当教員の指示に従ってください。
廊下を通行中の場合	壁の近くに身を寄せ、頭上に注意してください。
エレベーターの中の場合	最寄りの階に停止させ、階段で避難してください。
食堂	火災の発生や食器類が散乱する可能性があります。狭い出口に殺到してパニックにならないうよう冷静かつ速やかに避難してください。
体育館にいる場合	壁の近くに身を寄せ、頭上に注意してください。
図書館にいる場合	頭上からの落下物、書棚から本の落下やなどの可能性があります。まずは机の下に頭部を隠し、揺れが収まったら階段を利用し、速やかに館外へ避難してください。

### (避難時の注意点)

- ① 倒れやすい物には近寄らない。
- ② 火災が発生したら、周囲の人に知らせ初期消火に努める。ただし無理はしない。
- ③ けが人が出たら救護に努める。
- ④ 建物内からの避難は、周囲の状況をよく見て冷静に判断し、不用意に戸外に出ない。
- ⑤ 避難場所（屋外運動場トラック内）へ避難し、避難場所での指示に従う。
- ⑥ エレベーターは使用しない。
- ⑦ 落ち着いたら、家族や大学（ANPIC）へ所在及び安否を連絡する。
  - ・ 家族
  - ・ ANPICによる大学への連絡

### (2) 学外にいたとき

まずは、その場で身の安全を確保すること。

落ち着いたら家族、大学（ANPIC）へ所在及び安否を連絡する。

自身の安全や周囲の状況に応じて、救護活動に協力してください。

### (3) 帰宅困難者

東日本大震災では、鉄道等の運行停止により、多くの帰宅困難者が発生し、駅周辺や道路が大変混雑しました。首都直下型地震等大規模災害が発生し、鉄道等の公共交通機関が当分の間復旧の見通しが無い中、多くの人が帰宅を開始しようとすれば、火災や建物倒壊等により、自ら危険にさらされることがあります。

学内にいるときに大規模な地震が発生し、交通機関が運行停止した場合は、大学から指示があるまで構内にとどまるようにしてください。

### 第3 Jアラート発令時の対応

弾道ミサイルが発射され、万が一影響が予想される場合には、国から、ミサイル発射情報や屋内避難の呼びかけ等の緊急情報がJアラートにより伝達され、その情報がスマートフォン等の緊急速報メールや自治体の防災行政無線屋外スピーカーを通じて伝達されますので、落ち着いて以下の行動をとってください。また、これらの緊急情報にあわせて、テレビ、ラジオの報道情報等にも注意してください。

#### 屋外にいる場合

- ・近くの建物（できれば頑丈な建物）の中、または地下に避難する。
- ・近くに適当な建物がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せ頭部を守る。
- ・ミサイルが着弾した場合は口と鼻をハンカチで覆いながら現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内の部屋または風上に避難する。

#### 屋内にいる場合

- ・できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。
- ・ミサイルが着弾した場合は換気扇、エアコンを止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

※ Jアラート（全国瞬時警報システム）は弾道ミサイル攻撃に関する情報や緊急地震速報、津波警報、気象警報などの緊急情報を、国から住民に瞬時に住民等に伝達するシステムです。